

鳴門地区地域・人づくりワーキングの報告

鳴門地区地域・人づくりワーキング

2019年9月30日に設置された「鳴門地区地域・人づくりワーキング」では、コウノトリの繁殖により注目を集める鳴門市における、魅力的な地域づくりや人材育成等の具体的な事業の推進や地域の課題について検討を進めています。

〈2020年度〉

各回の参加者

第3回ワーキング(2020年9月4日)

【主な内容】コウノトリ・ツル類を活かした観光におけるルール(案)について／イベント企画(案)について／連携・協働が期待される事業者や団体について／普及啓発パネルについて

徳島県鳴門市におけるコウノトリを活かした観光を考える現地見学会(2020年11月5日)

【内容】営巣地周辺のサイクリング／生きもの観察／大西陶器・本家松浦酒造・農産物直売所えがおの見学
 主催：吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会
 参加者：びあ(株)、(株)昭文社、(株)JTBパブリッシング、鳴門地区地域・人づくりワーキングのメンバー

第4回ワーキング(2020年12月14日)

【主な内容】コウノトリ・ツル類を活かした観光におけるルール(案)について／現地見学会の実施結果報告／コウノトリ・ツル類を活かした今後の展開について／普及啓発パネルの貸し出し及び展示について



ワーキングメンバー		第3回	第4回
河口 洋一	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授	○ (WEB参加)	○
柴折 史昭	コウノトリ定着推進連絡協議会	○ (WEB参加)	○
田村 耕一	(一社)イーストとくしま観光推進機構 協議会長 ◆座長	○	○
井内 泰	(一社)イーストとくしま観光推進機構 事務局次長	○ (WEB参加)	欠席
渡辺 晃	(一社)ツーリズム徳島 事務局長	○ (WEB参加)	○
藤川 浩	JA徳島北 経済部 部長	欠席	欠席
野田 勇人	NPO法人れんこん研究会 理事長	○	○
塩崎 桂子	アオアヲナルトリゾート アシスタントセールスマネージャー	○ (WEB参加)	○
天野 裕己	(一社)鳴門市うずしお観光協会 次長	○	○
斎藤 忠恒	大麻町商工会 会長	○代理 (WEB参加)	○代理
氏師 毅	徳島県危機管理環境部環境首都課 課長補佐	○	○
玉岡 あき子	徳島県商工労働観光部観光政策課 課長補佐	欠席	○代理
佐竹 孝文	鳴門市経済建設部農林水産課 課長	○代理 (WEB参加)	○代理
前田 美香	鳴門市経済建設部観光振興課 課長	○ (WEB参加)	○代理

第3回鳴門地区地域・人づくりワーキングでの主な意見

主な意見

コウノトリ・ツル類を活かした観光におけるルール（案）について

- ・今期もコウノトリが巣立つ前の5月から6月上旬にかけて見学者が大変多く、田んぼギャラリー付近での路上駐車が目立った。早朝に400mより内側に入って写真撮影する方も見かけたこともあった。その時々でトラブルは生じていると聞くので、そのあたりを対応していただければと思う。
- ・ツーリズム徳島では散策マップを作成し、コウノトリ観察に当たっての注意事項を記載している。観光ステーションに来た方から「どこに行けばコウノトリを見ることができますか」とよく聞かれるので、散策マップを使って案内している。
- ・観光として利用する場合、営巣地周辺は農業地帯であるため、たくさんの人を受け入れることは難しい。そのため人数制限に関するルールを盛り込んだ方がよい。

イベント企画（案）について

- ・コウノトリが食べる生きものや生息する環境を紹介できるとよい。
- ・昼食にはレンコンなど、鳴門の特産品を使えるとよい。
- ・酒蔵見学で試飲ができるように自転車の乗車区間等を再考した方がよい。

連携・協働が期待される事業者や団体について

- ・とくしまコウノトリ基金では、コウノトリや生物多様性への関心を高めるため、ビオトープのお米を使ったお酒を本家松浦酒造と協働して仕込んでいる。

普及啓発パネルについて

- ・来訪者向けに板東南ふれあいセンターや駅舎など、大麻地区にも設置できるとよい。
- ・普及啓発パネルを動画で流せるようになるとよい。
- ・A1サイズは、設置場所が難しいので、縮小したサイズのものがあるとよい。
- ・とくしまコウノトリ基金で作成したコウノトリのはく製のお披露目とコラボし、普及啓発パネルをセットで設置できるとよい。



- ・コウノトリ・ツル類を活かした観光におけるルール（案）にツアーの定員の設定を追加する。
- ・ワーキングでの意見を踏まえ、イベント企画（案）についてルートやプログラムを再考する。
- ・普及啓発パネルの利活用に向け、当初想定していたA1サイズ以外のパネルや映像化についても要望に応じて対応する。

徳島県鳴門市におけるコウノトリを活かした観光を考える現地見学会

開催目的

コウノトリを活かした観光を進めるにあたって、旅行雑誌編集者の方々を招待して現地見学を行い、関西圏から集客するための発信方法・内容等についてご意見をいただく

開催概要

【日時】2020年11月5日(木)9:40～15:00

【場所】徳島県鳴門市

【主催】吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所）

【参加者】(株)昭文社 制作本部旅行書編集部 マネージャー

(株)JTBパブリッシング 西日本事業部 関西・中国四国エリア担当 編集デスク

ぴあ(株) 中日本・西日本エリア事業局 メディアコンテンツ・プロデュース部 西日本メディアコンテンツユニット 編集ディレクター

鳴門地区地域・人づくりワーキングのメンバー

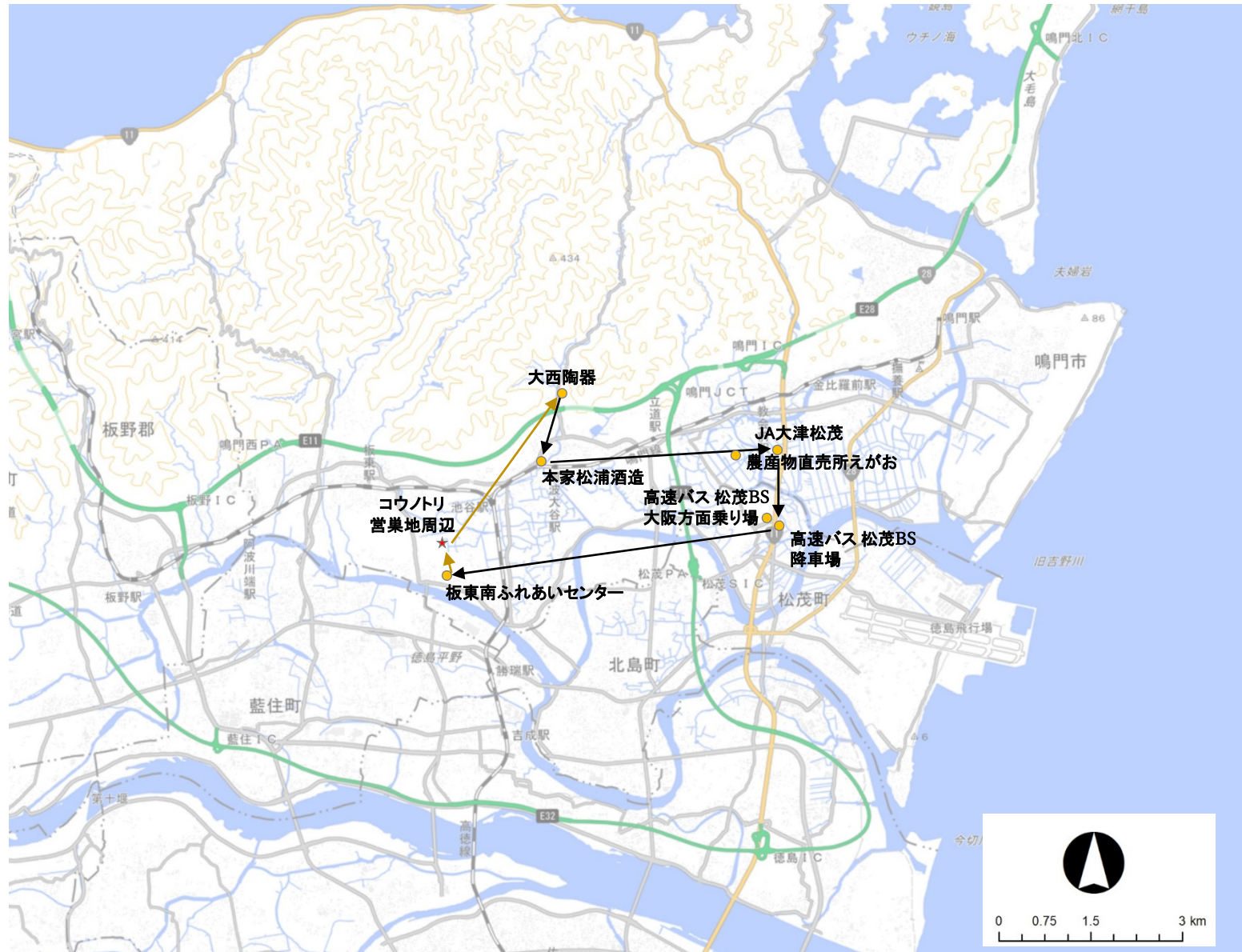
進行概要

時刻	場所	内容
09:40	板東南ふれあいセンター	徳島河川国道事務所の白石副所長、田村座長から開会挨拶。
09:55	自転車移動	Yeti&Ltbレンタルサイクル徳島の自転車に乗って、レンコン田の中を移動した。
10:05	コウノトリ営巣地周辺	徳島大学の河口先生と学生が、コウノトリのくらす環境やコウノトリが食べる生きものを紹介。人工巣塔に止まっていた2羽のコウノトリも望遠鏡で見ることができた。
10:35	自転車移動	移動途中にもコウノトリを見ることができた。
11:05	大西陶器	大谷焼の歴史や大西陶器での体験メニューを紹介。
11:35	マイクロバス移動	
11:40	本家松浦酒造	ビオトープ米でお酒を造るプロジェクトを紹介。蔵の見学や試飲も行った。
12:20	マイクロバス移動	車中でコウノトリについて説明
12:30	農産物直売所えがお	JA大津松茂が運営する農産物直売所で取り扱っている商品等を紹介。
12:45	昼食	
13:15	JA大津松茂	ご参加いただいた皆様から、現地見学会の感想を伺ったのち、コウノトリを活かした観光について意見交換。
14:15		閉会

徳島県鳴門市におけるコウノトリを活かした観光を考える現地見学会

現地見学のルート

新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた高速バスが運休になったことや対応いただく事業者からの要望等を踏まえ、以下のルートで現地見学会を実施しました。なお、自転車で走行した区間は板東南ふれあいセンターから大西陶器の間です。



徳島県鳴門市におけるコウノトリを活かした観光を考える現地見学会

当日の様子



開会挨拶



自転車移動



コウノトリの観察



コウノトリが食べる生きものの紹介



大西陶器での説明



本家松浦酒造での説明



農産物直売所えがおでの説明



意見交換

意見交換会で出された意見

■コウノトリを活かした観光及びプログラムについて

- ・観光客自身でコウノトリを見つけることが難しい。レジャー情報誌をつくる編集の立場からすると、ここをコウノトリに会える場所として紹介した場合、どの程度の確率で、読者が自分自身でコウノトリを発見できるのか不安。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、一人行動や一人旅が増加している。大阪から大人数のツアーを連れてくるという形式でのツアー実施は難しいので、関西からの一人旅客が、10名定員の現地ツアーに参加する形式がよいと思う。
- ・コウノトリの写真を撮るというメニューを露出させれば、集客は可能。
- ・今回のコースを商品開発する場合、距離が非常に長いと感じる。始点と終点について、いくつかの選択制を持たせるようなルート設定があるとよい。
- ・神戸から徳島に来て、もう一つ立ち寄りどころを考えた際、自然環境や鳴門のレンコンのために、足を伸ばして来る価値がありそうだと感じる。
- ・コウノトリを見つけられると感動する。また、ビオトープの生きものを見ながら、学んでいく過程も楽しく、子どもを連れてきたいくらいの良い体験。ただし、現時点では観光地として紹介するのは難しい。
- ・水田地帯を自転車で走ることがないので、非常に新鮮で面白かった。また、双眼鏡をご用意いただいていたので、コウノトリが見やすくありがたかった。
- ・関西からの集客は、利便性も非常に高く、認知度を上げていく仕掛けをつくれれば、人は来ると思う。

■ハード面（拠点施設・看板等）について

- ・観光客向けに場所の案内看板や見られる場所、最近確認された場所、飛来数などを案内するものがあるとよい。

■交通手段としての自転車利用について

- ・レンタサイクルは、観光客にとっても人気。ただ、お酒の試飲をすると自転車が乗れなくなるので、そこが難しい。

■情報発信やストーリーづくりについて

- ・雑誌の特集記事を作る場合、メインを張れる写真が必要。記事は、絶景写真で目を引き、ご当地でしか食べられないグルメや、そこでしか体験できないものを立ち寄りスポットとして紹介していくという作り方をすることが多い。一両編成の電車は、そうしたメインを張れる写真になるが、まだ素材が不足している。
- ・田んぼを走っているときに1両編成の鉄道が走ってきたのが非常に印象的だった。レンコン田を走る電車とコウノトリが1枚に収まるような写真があれば訴求力の高い絵柄が作れる。
- ・女性からするとコウノトリは幸せを運ぶ鳥、子どもを授けてくれる鳥というイメージがあり、一つのポイントになる。例えば、霊山寺等と一緒にコウノトリを一つのキーワードとして盛り上げていくため、御朱印にコウノトリのイラストを入れる、コウノトリのお守りを作るなど、ここに来たら手に入れられた何かみたいなものは必要。そうしたものがコウノトリと絡めてあると、紹介しやすい。
- ・今日回ったそれぞれの施設は集客力があり、素晴らしいが、その点同士を結び付けるストーリー性があまりない。コウノトリに絡めた関連性はあるが、観光客を周遊させるにはストーリーが甘いため、横串で刺せるようなストーリーを作れば、訴求力の高い商品になる。一貫性のあるストーリー作りができるとよい。

■関西での鳴門のコウノトリとレンコンの認知度について

Q.鳴門市がコウノトリの生息地であることを知っていたか。

⇒知っていた:1名 / 知らなかった:2名

Q.鳴門や徳島のレンコンというイメージはあるか。

⇒一般にはあまり有名ではなく、イメージもない。鳴門と言うと、鳴門金時の知名度が高い。

第4回鳴門地区地域・人づくりワーキングでの主な意見

主な意見

コウノトリ・ツル類を活かした観光におけるルール（案）について

- ・ルール（案）を今後実際に導入していくために、情報発信に積極的に取り組んでいく。 [ルールを8～10頁に掲載]

コウノトリ・ツル類を活かした観光の今後の展開について

- ・吉野川の氾濫の歴史や高地蔵なども組み込めるのではないかな。
- ・第一番札所、第二番札所以外にも、大きな神社や古い神社があるので、そういったところも組み込んでいけるのではないかな。
- ・ストーリーづくりでは、ターゲットを想定することが重要である。
- ・ワーキングにおいて、地域の歴史に詳しい方からお話を聞く機会があるとストーリーづくりにつなげられるのではないかな。
- ・資源を結び付けてQRコードを読み込む形でのスタンプラリーを行うことも考えられる。
- ・旅行に来たときの大きな楽しみは食であるので、コウノトリを見ながら、他では食べられないようなレンコン料理が食べられるとよい。
- ・徳島阿波おどり空港での情報提供も行えるとよい。
- ・すでにガイドを行っている方や地元でガイドをやってみたいという方がいれば、そういう方に対してセミナーやワークショップを行うことはできるのではないかな。

普及啓発パネルの貸し出し及び展示について

- ・大塚国際美術館へ働きかけて、例えば所蔵する鳥の絵の企画展とコラボしてパネルを設置してはどうか。



- ・コウノトリ・ツル類を活かした観光におけるルールが確定。今後、ルールを共有していくために、情報発信に取り組む。
- ・コウノトリ・ツル類を活かした観光の今後の展開について同意が得られた。（今後の展開を11～14頁に掲載）

ルールによって保護する対象

ルールを定める対象として、「コウノトリ・ツル類を含む自然環境」、「歴史・文化的環境」、「地域住民の生活環境や営農環境」を考えています。



2020年12月に鳴門市大麻町のコウノトリ営巣地付近に飛来したナベヅル

[写真提供:とくしまコウノトリ基金]

ルール

鳴門市でコウノトリ・ツル類を活かした観光を推進していくためには、コウノトリ・ツル類をはじめとする地域資源を保全し将来へ継承していくとともに、地域住民の生活環境や営農環境を保全することが重要です。そのため、以下のルールを定め、ガイドを含むツアー実施者や関係事業者、来訪者が、このルール及び関係法令等を守るように努めます。

ルールの内容及び設定理由

	ルール	設定理由
1	コウノトリ・ツル類を観察する時には、適度な距離を保ち、コウノトリ・ツル類の行動に悪影響を与えないようにします。 ・コウノトリ、ツル類から150m以上の距離を保つ ・コウノトリの巣から原則400m以上の距離を保つ ・写真撮影時には、フラッシュを使用しない	観光利用でのコウノトリ・ツル類への接近による繁殖放棄や行動変化などの悪影響を回避するため、コウノトリ・ツル類を観察する場合や出会った場合には適度な距離を保つ必要があります。
2	ツアー実施にあたって、実施するツアーの性質や特徴に応じた定員を設定します。	人数が過剰になることによる悪影響を避けるため、適正な人数を設定する必要があります。
3	ツアー実施にあたって、史跡や建物に訪れる場合は、それらの価値を事前に伝え、慎重な行動を促します。	参加者が誤って史跡や建物に傷をつけたりすることを防ぐため、注意喚起が必要です。
4	ツアー中のゴミの発生を最小限にします。また、発生したゴミを適正に処分します。	自然環境や景観を守るため、ゴミの発生を減らすとともに、適正に処分する必要があります。
5	ツアー実施にあたって、ツアー中に利用可能なトイレの位置及び数等を事前に確認するとともに、ツアー参加者にトイレの利用を促します。	環境を汚染しないよう配慮する必要があります。
6	ツアー実施にあたって、住居周辺や農地を利用する場合には、地域住民や農業者、土地所有者へ事前に目的や実施日時を説明し、了承を得ます。また、ツアー参加者に無断で住居や農地へ立ち入らないように呼びかけます。	地域住民の方のプライバシーに配慮するとともに、土地への無断立ち入りを防ぐ必要があります。
7	ツアー実施にあたって、自動車・自転車を利用する場合に、運転マナーを守ります。また、決められた場所に駐車します。	地域住民の方の安全を確保するとともに、トラブルを防ぐ必要があります。
8	ツアー実施にあたって、農作業に支障の出ることがないようにします。	農業者の方とのトラブルを防ぐ必要があります。
9	写真・動画を撮影する場合は、地域住民や農業者、他の来訪者の妨げにならないようにします。また、人や民家は許可を得て撮影します。	地域住民や農業者の方とのトラブルを防ぐ必要があります。また、肖像権やプライバシー権を守る必要があります。

ルールの運用

ルールの運用

ルールの共有

ルールが守られるためには、すべての関係者がルールを共有していることが重要です。そのため、ガイド等のツアー実施者、来訪者、地域住民に対してルールの周知を図ります。事業者、来訪者、地域住民に対して理解を得るために、ウェブページやパンフレット等での情報提供を行います。

順応的なルールの見直し

「コウノトリ・ツル類を含む自然環境」、「歴史・文化的環境」、「地域住民の生活環境や営農環境」の保全の観点から、地域関係者との意見交換によりルールの運用状況を点検し、実効性の評価や内容の追加・修正の必要性を検討の上、必要に応じてルールの見直しを行います。

現地でのマナー看板の設置、ウェブページでの発信を継続するとともに、ルールを記載したパンフレット等を観光関連施設等で配布することを検討します。

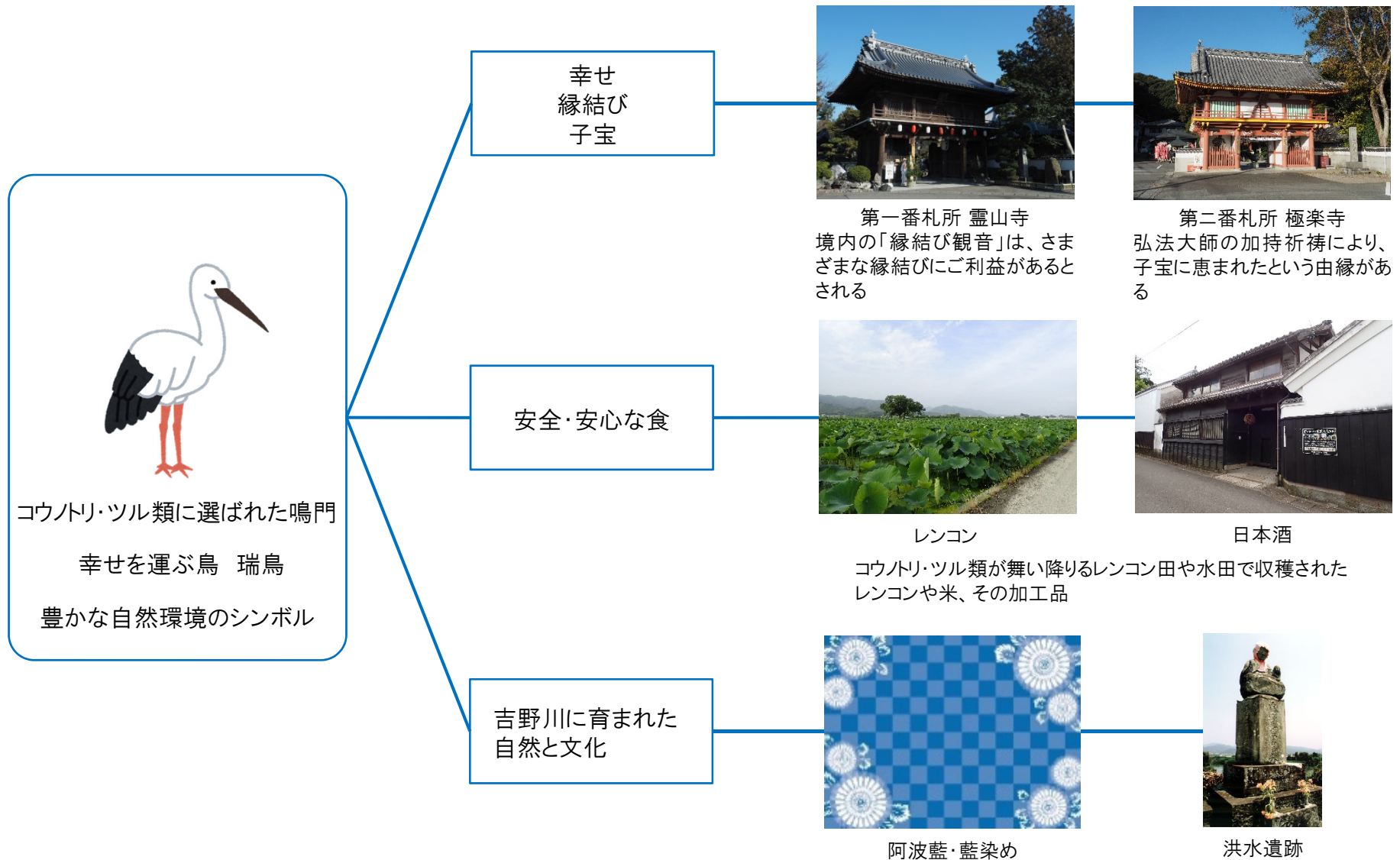


ワーキング及び現地見学会であげられた主な意見と今後の展開

	主な意見	今後の展開
1	<p>関西圏において、鳴門市でコウノトリが繁殖していることやレンコンが名産であることの認知が低い</p> <p>それぞれの施設は集客力があり、素晴らしいが、その点同士を結びつけるストーリー性があまりない。</p> <p>一貫性のあるストーリー作りができるとよい。</p>	<p>地域の知名度を高め、徳島県外(特に関西圏)から集客していくために、コウノトリ・ツル類と既存の地域資源を結びつけるストーリーを検討し、各種メディアやイベント等で地域内外へ発信する</p>
2	<p>観光客向けに場所の案内看板や見られる場所、最近確認された場所、飛来数などの案内があるとよい。</p> <p>2021年秋季(10月～12月)に四国デスティネーションキャンペーンが実施される予定。</p>	<p>来訪者に対するコウノトリ・ツル類の情報提供の充実を図るために、公共施設や観光関連施設での情報発信を検討、実施する</p> <p>コウノトリの営巣地の最寄りの駅である板東駅、池谷駅での展示や、特急列車での車内アナウンスの実施について、JR四国へ働きかける</p>
3	<p>観光客自身でコウノトリを見つけることが難しい。つきっきりのサポートがあったので、コウノトリがいる場所を教えてください、見つけられた。</p> <p>コウノトリ・ツル類を観察するためには双眼鏡などの道具が必要。</p> <p>ガイドがいれば、効率的にコウノトリを見て、農家へも配慮することができるのではないか。</p> <p>詳しい情報をもったガイドが必要。</p> <p>体験型の商品は、指導してくれるガイドの魅力が大事になってくる。ガイドの層を厚くしていくことが大切。</p>	<p>受け入れ体制の充実を図るために、来訪者に対するガイドンスの手段、ガイドンスの内容、ガイド養成の手法を検討する</p>

ストーリーづくり

地域の知名度を高め、徳島県外（特に関西圏）から集客していくために、コウノトリ・ツル類と既存の地域資源を結びつけるストーリーを検討し、各種メディアやイベント等で地域内外へ発信します。



来訪者に対する情報提供の充実

来訪者に対するコウノトリ・ツル類の情報提供の充実を図るために、公共施設や観光関連施設での情報発信を検討、実施していきます。また、コウノトリの営巣地の最寄りの駅である板東駅、池谷駅での展示や、特急列車での車内アナウンスの実施等について、JR四国へ相談し、検討を進めます。

板東駅、池谷駅の駅舎での展示

駅舎内にコウノトリの等身大パネルを置くなどの展示を相談、検討(板東駅では観光パンフレット「OASA MAP」がすでに配布されている)。



板東駅



板東駅舎内



板東駅舎内

「特急うずしお」での車内アナウンス

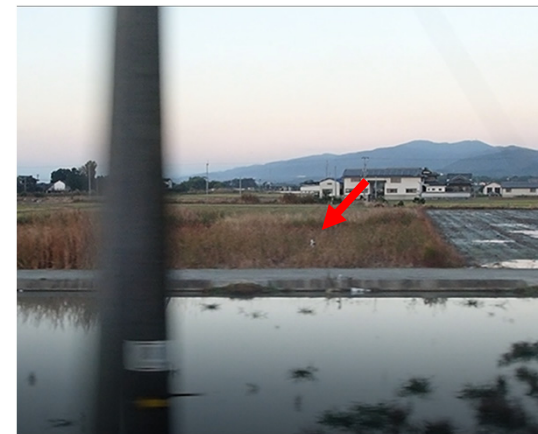
特急車内で、鳴門市のレンコンやコウノトリについて紹介する車内アナウンスを行えないか相談、検討。



特急うずしお



列車(勝瑞駅⇒池谷駅)の車窓から見られたコウノトリ



受け入れ体制の充実

受け入れ体制の充実を図るために、来訪者に対するガイダンスの手段、ガイダンスの内容、ガイド養成の方法を検討します。

ガイダンスの手段

人	ガイドが直接案内し、自然や文化などに関する詳しい説明や解説を行う
人以外	解説板、パンフレット、展示物、携帯端末などの情報機器などを用いて伝達

ガイダンスの内容

- ・コウノトリ
- ・コウノトリが食べる生きもの
- ・土地の成り立ちや特徴、地域の歴史や文化、産業



- ・地域の実情や季節ごとのコウノトリ・ツル類の出現スポットを把握していることが望まれる

ガイド養成

- ・セミナー、ワークショップ

